

会議録

会 議 名	令和6年度 第1回芦別市いじめ問題対策連絡協議会	
年 月 日	令和6年5月28日(火)	時 間 18:00~19:10
場 所	芦別市役所 3階 第1会議室	
出 席 者	<p>出席委員(11名)</p> <p>山田(恵一)委員、瀬戸委員、山田(正行)委員、萩原委員、柴泉委員、川村委員、佐々木委員、平手委員、横山委員、松田委員(副会長)福島委員(会長)</p> <p>担当所管(5名)</p> <p>学 務 課 木野田課長、斎藤係長、林専任指導員、神主事 生涯学習課 相場課長</p>	
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 教育長挨拶</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>ア. 令和5年度 学校・教育委員会の取組結果について</p> <p>イ. 令和6年度 学校・教育委員会の取組計画について</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>ア. ネット利用に関するアンケートについて</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>	
議 事	<p>1 開会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 会長挨拶</p> <p>皆様、こんばんは。教育長の福島修史と申します。よろしくお願ひします。令和6年度第1回目の開催となります芦別市いじめ問題対策連絡協議会の開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。本日は、お忙しい中ご出席をいただきましたことについて、厚く御礼申し上げます。委員の皆様におかれましては、日頃から、次代を担う児童生徒の健全育成はもとより、いじめ問題の対応についてご理解とご尽力をいただいておりますことに、心より感謝を申し上げます。</p> <p>また、本年4月の所属団体の役員改選に伴いまして、川村委員に委嘱状の交付をさせていただきました。改めまして、委員をお引き受けいただき</p>	

ましたことにお礼を申し上げますとともに、いじめ問題の対応につきましてご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

さて、いじめへの対応でございますが、被害にあった子どもたちの大切な命を守っていくことはもちろんのこと、心身の健全な発達を促していくといった観点や、いじめを要因として、不登校につながらないような対応を図るなど積極的ないじめの認知とスピード感をもった対応が不可欠です。またいじめ問題については、子どもたちの将来を左右しかねない極めて重要な今日的課題であると考えております。

本市におきましても、毎年のアンケート調査結果から、いじめが確認されているところですので。このため、いじめを訴えている子どもたちの心に寄り添った対応と、加害児童生徒への適切な指導を講じながら、いじめが継続しないよう取組を進めているところでありますが、学校や教育委員会におきましては、いじめの未然防止という観点、いじめの根絶に向けて今後も効果的な対策を講じていかなければならないと考えています。いじめの問題については、学校内だけの問題ではなく、学校以外の部分で様々な形で生じていると考えております。そのような観点を踏まえ、家庭や地域全体での取組も大切であると考えております。委員の皆様におかれましては、それぞれの豊富な経験やご見識の下、この問題についてなお一層のご尽力を賜りますよう重ねて申し上げます。

本日の会議などを通じて、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、本市のいじめの未然防止等に向けて、学校と教育委員会がなお一層連携を深めながら、取組を加速させて参りたいと考えています。

結びになりますが、委員の皆様におかれましては、ご健勝で、それぞれのお立場におかれまして、なお一層のご活躍されますことをご祈念申し上げ、意を尽くせませんが、お礼とお願いの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4 議事

(1) 報告事項

ア. 令和5年度 学校・教育委員会の取組結果について

(事務局)

令和5年度に実施した芦別市内小中学校と教育委員会のいじめ防止に関する独自の取組や北海道教育委員会等が主催する取組への参加結果等について報告。

※意見等なし

イ. 令和5年度 学校・教育委員会の取組計画について

(事務局)

令和6年度に実施する芦別市内小中学校と教育委員会のいじめ防止に関する独自の取組や北海道教育委員会等が主催する取組への参加予定等について報告。

(委員)

子どもテレフォン相談について、毎年相談件数が0となっている。今の子どもたちは電話で相談はしないではないかと思います。仕方のないことかもしれないが、電話相談ではなく、別の形で北海道が行っているラインやSNSを使うなど、子どもたちがもっと気軽に相談できる形にしたほうがよいです。現在の様々な取組がマンネリ化し、今の子供たちや親の実態とかけ離れていき、子どもたちの悩みが闇の中に入っていつてしまうと感じています。保護者からの話を聞く機会が多くあるが、担任とうまくいかない、子どもが悩んでいて学校に行けない、友達との関係など悩みが多くあると聞いています。そのところを、どれだけキャッチしていけるか、また、多忙につき教員がキャッチすることが難しいところもあると思います。私も4月に担任の変更があり、保護者に連絡をすることがありますが、担任が変わって学校に行けるようになったという嬉しい報告をいただいたり、逆に新しい担任とうまくいっていないなど、そのような悩みを学校の中でキャッチする力を高めていくことも必要です。また先生方の悩みについても学校側が把握することも大切と考えます。

いじめは早期発見・早期対応が大事なので、HyperQUのような取組をされていると思いますが、さらに新しい取組というものを、子どもたちの日々変化する実態に合わせて取り組んでいただきたいと思います。テレフォン相談も違う形にした方がよいです。

(事務局)

委員からご指摘のありました、子どもテレフォン相談ですが、過去3年間相談件数が0となっております。おっしゃるとおり、時代の流れとともに電話での相談は子どもにとって相談しにくいものになっていると感じています。私が20年前に生涯学習課に在籍していた際は、毎月のように相談があったことを記憶しております。道においては、ラインでの相談体制が確立されたとのことですが、子どもにとってそのようなSNS等を利用することで気軽に相談できるのではないかと感じている。今後SNSを活用した受付体制について、道でも導入されたということで、メリットデメリットを勘案しつつ、他の自

治体の動向や事例を見比べながら、子どもたちにとってどのような体制が望ましいのか勘案していきたいと思います。

(会長)

ただいま生涯学習課長より考え方が述べられたように、今後どのような体制が望ましいのか、ご指摘等を踏まえながら検討して参りたいと考えています。また、平手委員の後段でありました、教員の子どもや保護者の悩みをキャッチする力について、さらに高めていく必要があるというご意見もありましたが、副会長からお考えのことがありましたら、お願いしたいと思います。

(委員)

委員のご指摘のとおりだと思います。学校においては、できるだけ早くそういった情報を得て、対応していくことがとても大切なことであるという認識にあります。実態としては、いじめアンケートの中でも、トラブルが起きた際だれに相談するかという項目がありますが、多くの中学生は、友達、保護者、その次に先生の順番という傾向があります。友達に相談した際に、どうやって大人に情報を入れていくか、今様々なところで言われているSOSを出す力を育てるということで、子どもたちにも指導が必要であると考えています。逆に相談を友達から受けたときに、どう対応していくかということも同様に学校として子どもたちに力を付けていくことが必要だと考えています。そういった取組により、必要に応じて大人に繋がっていき、いじめの早期発見に繋がっていくという視点を持ちながら工夫していくと思います。先生方が気づかないところで起きることがトラブルの一つの側面であるので、先生方ができるだけ気づくよう、学校でもアンテナを張っていきたいと考えています。

(会長)

ありがとうございます。私の立場という点におきましても、先生方のキャッチする力（目配り・気配り）について、極めて大切な観点だと考えています。いじめだけの問題ではありませんが、子どもたちの家庭環境の状況の把握も含めながら、子どもたちの悩みを捕まえていけるよう校長会等を通して伝えていきたいと思います。

～2件報告済み～

(2) 協議事項

ア. ネット利用に関するアンケートについて

(事務局)

ネット利用に関するアンケート調査については、平成25年度に始まり、平成30年度に改訂されて以来そのまま使用されており、スマートフォンの普及等により子どもたちのネット利用環境も大きく変化してきていることから、次年度に向けて、現在のアンケート項目について追加すべき項目等について意見をいただきたい旨を説明した。

(会長)

今般のネットいじめやネット犯罪等については、憂慮すべき時代の背景もあり、次年度の調査に向けて本アンケート調査について、委員の皆様からご意見をいただければということでございます。現時点において、アンケート項目の見直しや追加した方がよい項目等がございましたら、ご意見をいただけるとありがたいと思います。

(委員)

アンケート調査の方法や回収についてどのように行っているのでしょうか。

(事務局)

対象が小学校5・6年生、中学校全学年となっており、学級指導により、回答しその場で回収することとなっております。

(委員)

おそらく、今の子どもたちは、インターネットやネットという言葉を使わないと思います。子供たちにとって言葉自体がわかりにくくなっているのではないのでしょうか。項目に「インターネットをどのくらい使いますか」や「ネット上で悪口を言われたことはありますか」についても、どのことを言っているのかわからなくなっているかもしれないので、SNSの利用など今の時代に合わせた文言に変えていく方がよいと思います。

(会長)

貴重なご意見ありがとうございます。子どもたちにすぐ伝わるような表現が必要ではないかということでございます。

いただいたご意見を来年度に活かしていきたいと思っております。

(委員)

思いつく範囲ですが、子どもに対する調査となっておりますが、親にも調査を行うと異なる結果が見えてくるのではないかと思います。

うので両方にとるとよいのではないのでしょうか。集計が大変だとは思っているので、ネット上でアンケートを取るとよいと思う。総務省で毎年実施している調査にもなっているので、項目を合わせると全国と芦別市を比較しやすくなってくると思います。

個人的な意見になるが、依存傾向について一番心配している。いじめではなくなってくるかもしれませんが、依存傾向につながるような項目もあると学校としてはありがたいです。

(会長)

総務省の調査を参考にしながらという意見や、依存傾向についての項目を追加することなどご意見をいただきました。これらの意見を事務局の方で参考にさせていただければと思います。

また、保護者を対象としたアンケートということでもございましたが、このことについて委員の皆様のご意見等ございましたら、お願いできればと思います。

(委員)

親と子どものアンケートについてですが、結果はやはり変わってくると思います。土日は特に親が寝た後に夜遅くまで利用している傾向があるので、調査に入れていくのもよいと考えます。子どもが正直に答えているかどうかということもあると思うので、松田副会長が言ったように、保護者にも取るとよいのではないのでしょうか。

(委員)

昨今子どもたちが動画を見る機会がととも増えていますが、動画アプリのアカウントを持っていないと見れないようになっていきます。そのアカウントを本人が持っているのか、親のアカウントを使っているのか、またSNSとひとくくりにするのではなく、インスタやラインなど具体名を入れるとわかりやすくなるのかなと思います。ライン動画は多くの通知があり、不適切なものもあるので、子どもたちがどのように対応していけるのか、制限のかけ方についても考えていきたいです。また、ゲームをどのくらいインストールをしているか調査するのも良いと思います。無料だと思っていやっても課金が出てくることもあるので、そういったところもアンケート項目に含めていただけないでしょうか。

(事務局)

現在いただいた意見について、保護者や学校による子どもへの指導に役立つ項目について考えていきたいです。

(会長)

以上で協議事項が全て終わりました。後日でも構いませんので、本アンケート調査に関わってご意見等ございましたら、電話等で教育委員会事務局までお知らせいただければと思います。皆様からいただいたご意見を踏まえましてよりよい調査となるようにしていければと思いますので、ご理解とご協力についてお願いします。

なお、ネット利用に関するアンケート調査については今月実施しております。また、いじめ把握のためのアンケート調査については、来月の6月に予定しております。後程事務局からお知らせしますが、委員の皆様は任期でございますが、令和6年7月末日をもって2年間の任期が終了となります。8月1日から新たな2年の任期という形で引き続き委員をお引き受けいただけるという方、また団体の委員改選によりメンバーが変わられる方もいらっしゃるかと思います。8月1日以降については、早い段階で本協議会の第2回目を開催したいと考えており、その際にネット利用に関するアンケート調査結果及びいじめ把握のためのアンケート調査結果について報告をさせていただきますので、ご承知おきください。

5 その他

(会長)

その他ですが、最初に委員の皆様から、いじめの未然防止やいじめの解消など、いじめ問題全般に関するご意見も含めまして、何かございましたら、ご発言をいただきたいと存じます。

特にないようでありますので、突然の指名となりますが、中学校統合について、今年4月から新たなスタートを切り、2か月が経ちました。これまでに地域の方々や児童生徒との意見交流をして参りましたが、新しい学校に期待する声があった一方で、いじめに対する不安の声もあったところです。そういったところも踏まえながら、委員から現在の学校の様子を含めてお知らせいただけないでしょうか。

(委員)

今まで同じ学校にいたような雰囲気です。2か月程度たちますが、なじんでいる様子が伺えます。子どもたちは順応性が高く、大人が心配する以上にたくましい存在です。先週金曜日には、体育大会が整然とした中で開閉会式、各種競技が行われました。とはいえ、疾風怒濤の時期といわれている思春期の子どもたちではありますので、何も無いということではなく、小さなもめごとは

日常的にあります。それを0にするよりも、それによって嫌な思いをした子どもたちを見逃さない、見逃し0が大事だと学校として考えています。いじめを積極的に認知していこうという取組を進めています。現在北海道教育委員会のいじめアンケート調査を実施中ですが、6割程度進んでおり、嫌な思いをしたという回答も数件見られています。暴力や犯罪行為といったものは今のところありません。先ほど申し上げましたが、いじめを0にするというよりは、見逃しを0にすることを目的として進めていき、そうすることが子どもたちの心理的安全の確保につながっていくと考えております。子どもたちは何とか落ち着いて生活しておりますので、地域の皆様の暖かい目というのが非常に大きいと思っております。今後とも気が付いたことがあれば遠慮なくお知らせいただきたいと思っております。あわせてお声がけの方もお願いしたいと思います。

(会長)

ありがとうございます。当初懸念していた部分はなく、楽しんでいるのかなと思います。人間関係も今後色々出てくるかとも思いますが、生徒指導も含めながら、校長教頭を先頭にして芦別中学校の先生方がチーム芦別中学校として、先ほど平手委員からもありましたキャッチする力を高めていただき、統合してよかったと思われるような評価をいただけるようご尽力をいただきますようよろしくお願いします。その他、事務局から何かありますか。

(事務局)

- ・委員任期については令和6年7月31日までとなります。
- ・次回の会議は、改選後、案検等の時機を見ながら決定します。
- ・委員報酬については後日文書で通知します。

(会長)

委員の皆様からご意見等がありますか。

※意見等なし。

6 閉会